

(2) 蕨岡中学校

学 校 長 大塚 明人
校内研究代表者 小島 法

1. 研究主題

「 自ら考え、判断し、表現する力の育成
～確かな学力の定着に向けて～」

2. 主題設定の理由

これからの予測困難な社会を生きぬくためには、答えがない課題に対して「最適解」を求めようとする力や、そのために他者と協働する力などが求められている。中学校を卒業した生徒たちが自らの目標に向かってたくましく生きていくために、他者と協働する中で新たな自分を発見していく経験や、幅広い知識と柔軟な思考力をもとに、自分で考え、判断し、行動する経験を、中学校段階から多く積むことが必要である。

そのような経験を多く積むためには、授業において新学習指導要領に明記された「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、生徒が「わかった!」「できた!」と感動を味わえる授業を展開していくことが重要である。中でも主体的に学ぶ姿勢を養うことが、生涯にわたり学び続けていくためには最も重要であると考え、昨年度から継続して、研究主題を「自ら考え、判断し、表現する力の育成」と設定した。また、昨年度の課題として基礎的な知識の弱さが見られたので、副題を「確かな学力の定着に向けて」とした。そして、教師自身が協働し授業改善を図る過程において、教師の同僚性を高め、教師が話し合う場を設定していくことで、教師の資質、指導力を向上させたい。

3. 研究の進め方と方法

- 毎週、原則水曜日を校内研修日として設定し、年間計画に沿って研修をする。そして、「チーム会＝全員での研修」という状況なので、校内研修を教科間連携の場として位置づけた研修とする。また、週1回継続して行っていく。
- 一人一授業の研究授業を行い、5教科は改善プランの公開授業と兼ねる。その際、指導主事を講師として招聘し、研究授業と協議において指導・助言いただく。
- 研究主題を受け、「見通し・振り返り」の学習活動を充実させるために、学習課題・めあての設定において工夫した点などを学期総括で共有、検証していく。

4. 具体的取組

(1) 授業改善と学力向上

① Basicガイドブックに基づいた授業づくり (6つの視点)

【具体的内容】

○基本とする流れ

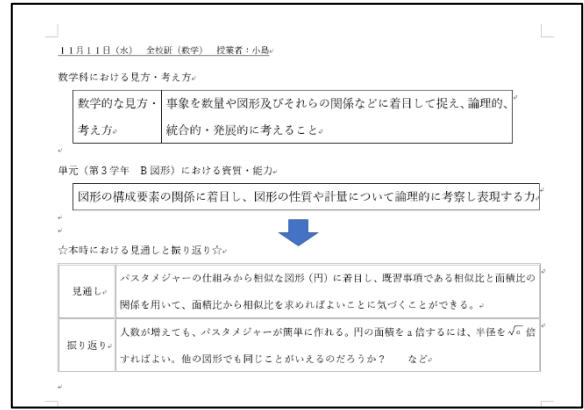
事前研修

- 1 単元等のまとまりを見通した計画的な指導について
- 2 問題解決的な学習について
- 3 「見通し・振り返り」の学習活動について
- 4 言語環境の整備と言語活動の充実について
- 5 生徒指導の三機能を生かした授業づくりについて
- 6 ユニバーサルデザインに基づく授業づくりについて

今年度は、3の視点に絞って研究を進めていく。

研究授業

事前に、授業者が本時における③の視点について確認をする。そして、授業参観を行う。事後協議において、先ず初めに参観者は、③の視点についての考えをまとめ、それを基に授業後の研究協議を行う。また、新学習指導要領の周知・徹底として講師から指導・助言をいただく。〔講師招聘〕



事後研修

- ・研究協議の内容や様子、講師からの助言などをまとめ、成果や課題を共有する。
- ・得られた課題を克服するために、NITS校内研修シリーズを活用する。
- ・校外の研修に参加した教員から定期的に伝達講習を行い、共通理を図る。 など



総括と振り返り

「研究だより」を発行し、全体に共有を図る。

②家庭学習の習慣化と授業のサイクル化

- ・家庭学習を通して生徒にどんな力をつけたいのか、目的を明確にする。
- ・家庭学習力アンケートを実施し、生徒が学びを振り返るのに活用する。(年6回)
- ・発達段階に応じた内容と量を考える。(予習・復習の工夫)



(2) 夢・志にかかわっての学習意欲の向上

- ①キャリア教育の充実に関する取組
(キャリアノートの継続)
- ②キャリア教育の要となる学級活動の充実
- ③キャリア教育の視点に立った授業づくり
(横断的な指導)
- ④キャリア教育を実践していく上で、中心となる総合的な学習の時間の充実



5. 今年度の成果と課題（成果：○ 課題：●）

【授業改善と学力向上】

- Basic ガイドブックに基づく授業づくりの校内研修を意図的・計画的に行うことで、全教職員が基本に立ち返って、日々の授業改善に活かすことができ、教員の資質・指導力の向上につながった。
- 授業研究では、事前に授業者が参観者に対して、本時における「見通し・振り返り」の学習活動について確認したので、視点が明確になり、他教科の先生でもイメージしやすく自分事として参加することができていた。また、研究協議では、授業者も含めて4名しかいないので、最初に個人思考の時間をしっかり確保するように変更し、事後協議が深まりのあるものになった。
- 指導主事を講師として招聘し、「指導と評価の一体化」についてなど、新学習指導要領で求められていることを講話していただき、来年度からの完全実施に向け、情報を共有することができた。
- 校内研で定期的に「見通し・振り返り」活動の実践報告を各教科担当が行うことで、普段の授業における意識の向上につながった。また、教科間連携の場としても効果的であった。
- NITS のオンデマンド研修では、本校の課題や研究主題につながる内容を選んで実施したので、全教職員で共通理解を図り、学びを深めることができた。
- 授業づくり講座などの校外の研修に積極的に参加し、校内研修で伝達講習を行うことで、単元デザインや能力ベースの授業づくり本校の研究実践に役立てることができた。
- 家庭学習の習慣化と授業のサイクル化においては、昨年度の課題であった「予習」について数学科を中心に、生徒が学習してきたことを授業の導入部分に活用することで、見通しを持たせるのに効果的であり、主体的な学びにつながった。また、既習事項を用いて新たな問題を解決しようとする態度を養うこともできた。
- 家庭学習力アンケートを学期毎に前半と後半の2回行い、生徒に振り返らせることで意欲の向上につなげたり、アンケート結果から分析したことを教員間で共有し、生徒理解につなげたりすることができた。
- 授業研究後や学期末には毎回、総括と振り返りを行ったが、研究だよりを定期的に発行することができなかった。

※ コロナ禍のため、悉皆研修による出張が激減したので、兼務教員の担当授業の時に校内研を実施し、働き方改革の一助となった。

【夢・志にかかわっての学習意欲の向上】

- キャリア教育を総合的な学習の時間を中心として取り組むように位置付けての実践(蔵岡マップ)が計画的に行えた。また、キャリアの視点に基づいた生徒に身に付けさせたい力を意図的に向上させることができた。
- キャリアノートの取組を継続していく中で、子どもたちが自分自身の学びや活動を振り返り、社会的・職業的自立の基盤となる能力や態度、ふるさとを愛する心など身につけた力を自覚することができた。また、肯定的に振り返ることで、自尊感情の向上にもつながった。
- 学校行事の前後に、キャリアシートを活用して学級活動の充実を図ったが、十分深められなかった。